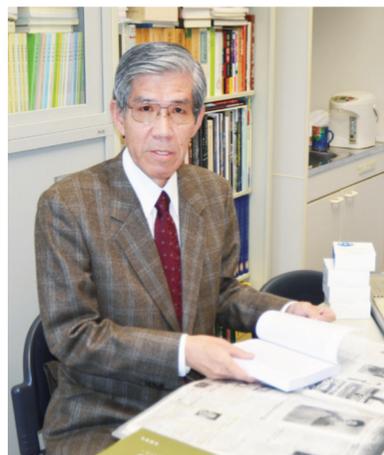


日本の伝統演劇通じ異文化交流史を研究 国際関係・田中徳一教授

田中教授は、戦前に欧米22万国を芝居巡業して反響を呼びながら、今では知る人もない日本の役者、筒井徳二郎(1881~1953)の足跡を、約20年の年月をかけて掘り起こし、平成25年に『筒井徳二郎 知られざる剣劇役者の記録』(彩流社)を刊行し、一昨年の国際文化表現学会の学会賞を受賞した。



収集した資料を調べる田中教授

興味を持ち、『東西演劇の出合い』を翻訳させてもらった。翻訳中、ドイツの劇作家ブレヒトが、筒井の芝居に刺激されたことを知る。最初は筒井が戦前の関西で剣劇役者として活躍した程度のことしかわからない。そこで研究の出発点だった。

身体表現に新鮮な魅力

剣劇役者・筒井徳二郎に焦点

当時の新聞記事に、出も、日記のような記録が身地、父の職業の記述を残っているわけではない。調査の糸口になったのは、外務省外交資料館蔵の「外国旅券下付表」。そこに記された座員の本人と本籍を基に、電話帳で見当をつけて片っ端から海外巡業の模様についても、これを記録した

重要な資料が見つかり、また筒井と芝居の巡業をしたことのある元歌舞伎役者も巡りあう。これらで新派・剣劇役者たちが、歌舞伎通の芝居巧者が各地の公演プログラムや旅券、私信、日付入り写真などが明らかになった。ただ肝心の海外巡業



EU関連のセミナーで講演する田中教授

庶民まで楽しませることができた。一介の剣劇役者が西洋の一流の演劇人に刺激を与えたとは、文化交流の逆説で面白い」とは、田中教授の筒井評。

田中 徳一(たなか とくいち) 昭和47年日本大学文学部独文学科卒、52年日本大学大学院文学研究科の単位取得満期退学。博士(国際関係)取得。61年に国際関係学部助教授となり、平成8年に教授。専門は比較演劇学、各国文学・文学論、ヨーロッパ語系文学。日本比較文学会、日本演劇学会、日本独文学会、国際プロファイル学会、国際文化表現学会、芸術学

日本と西欧のあかり文化を比較研究 生産工・山家哲雄専任講師

近年、イルミネーションや建造物のライトアップなど、夜の街の表情を彩る「あかり」が注目を集めている。日本とヨーロッパのあかり文化の相違点を明らかにしようと取り組んでいる山家専任講師に、その一番の違いを尋ねると、照明の色味を表す色温度が異なるという。



ゼミの学生とともに。中央のランタンの数々は照明国際会議2014年度、2015年度の奨励賞受賞作品「あかり絵」「ウェルカムあかり絵/影絵」「書あかり」

「日本では、色温度が高い白い色が好まれます。それに対し、ヨーロッパでは色温度の低いオレンジ色が好まれます。伝統的には、ろうそくの炎の色が好まれています。この違いの背景には、地理的な要因と歴史的な要因がある。日本は周囲を海に囲まれているため、湿度が高

光イベントの監修も

自身が創設ならびに命名

「白い光が必ずしも悪いわけではない。ただ、自宅のリラックスするときは、職場と同じく、空気中に水蒸気が浮遊。それに陽光が当たる」と乱反射して、白いベール越しにも見える光環境にある。ふだんから高い色温度と拡散光による影の出来難い光環境にDNAに刻まれているのです。

定量的に照明デザインを表現 適時・適光・適所を提唱 創生デザイン学科の創設と命名に携わる

名に携わった「創生デザイン学科」では、色彩・照明(照明)デザイン明視論、(照明)デザイン

第一人者との出会い

照明デザインを主な研究対象にするまでには2回の転機があった。



道東・川湯温泉の冬季限定の光イベントは今年も2月2日~22日の予定で開催

山家 哲雄(やまが てつお) 昭和50年日本大学生産工学部電気工学科卒業。卒業後、同大生産工学部電気工学科副手。平成21年創生デザイン学科に。長年、パリ第一区・ヴァンドーム広場における光環境

それが縁で、石井氏との交流が始まり、研究のフィールドを、「測光」分野から「都市景観照明デザイン」に移した。デザインのアプローチにおいては、美的な定量的表現することをモットーとしている。美しさの根拠を示す科学的な客観性を持たせ